

早稲田大学高等研究所「人新世と人文学」セミナーシリーズ 第 6 回

人新世に響く音

——環境変動の歴史における楽器製作

日時：2022 年 10 月 1 日（土）10:00-12:00

参加方法：Zoom（要事前登録）



- | | |
|-------------|--|
| 10:00-10:05 | 開会挨拶 司会：山本 聡美（早稲田大学文学学術院 教授） |
| 10:05-10:25 | 講演「音・音楽研究から人新世を問う——エコミュージコロジーにおける物質論的転回」 葛西 周（早稲田大学高等研究所 講師） |
| 10:25-11:10 | 講演「「原材料—用具—伝統芸能」をつなぐ「保存技術」
前原 恵美（東京文化財研究所 無形文化財研究室長） |
| 11:15-12:00 | 質疑応答・討議 |

このセミナーシリーズは、2021 年 10 月より活動開始した、早稲田大学高等研究所「人新世と人文学」プロジェクトの一環として実施するものです。人新世の概念を共有した領域横断的な対話の場を設けることで、細分化された専門知を連結し、人文学の新たな可能性を拓くことを試みます。

第 6 回は、無形文化遺産学・文化財保存技術を専門とする前原恵美氏を迎えて、日本の伝統芸能で用いられる楽器の原材料や製作技術について、自然環境・社会環境との関連から講演いただきます。前原氏の講演に先立って、プロジェクトメンバーの葛西周より、音・音楽研究分野における人新世をめぐる議論の可能性について、関連する研究動向を紹介しつつ説明します。

前原 恵美

東京藝術大学大学院博士課程（音楽学）単位取得満期退学。1991 年より五世常磐津文字兵衛に師事、93 年に常磐津紫緒の名を許される。99 年、「第 15 回清栄会奨励賞」（研究者部門）受賞。有明教育芸術短期大学教授を経て、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所へ。古典芸能や無形文化財の研究と並行して、演奏活動もしている。著書に『常磐津林中の音楽活動の軌跡：盛岡市先人記念館所蔵林中本を手掛かりに』（武久出版、2013 年）。

葛西 周

東京藝術大学大学院博士課程修了。博士（音楽学）。専門は日本近現代音楽史。人々が音楽を実践し体験してきた場に関心を持ち、現在は観光地の劇場文化に着目している。主な共著に『音と耳から考える：歴史・身体・テクノロジー』（細川周平編、アルテスパブリッシング、2021 年）、『移動するメディアとプロパガンダ：日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術』（西村正男・星野幸代編、勉誠出版、2020 年）など。